

駆け抜ける

期待の新星! 野田なづき選手

昨年11月にプロデビューを果たした多久市出身の19歳、野田なづき選手。合格率わずか5%の難関を突破して養成所に入り、ボートレーサーとしてデビューするまでの道のりや今後の展望、生まれ育った多久市への思いを聞きました。



公益社団法人日本モーターボート選手会
佐賀支部 登録番号 5118

の だ
野田なづき選手

2000年7月19日生まれ。東多久町で
生まれ育ち、東原彦倉東部校を卒業。

ボートレースとの 出会い

現在各地のボートレース場で活躍する野田選手ですが、かつては全日本バレーボール高等学校選手権大会（春高バレー）出場を目標に強豪校へ進学し、練習に明け暮れていました。しかし、身長156cmの野田選手が、当時任されていたスパイカーとして活躍するのは難しく、他のポジションを試すも、うまくいかなかったそうです。

バレーボールで活躍するのは難しいかもしれないと思い始めた頃、ボートレースの存在を知り、長崎県大村市に住む祖母宅近くのボートレース場へと初めて足を運びます。

「迫力あるレースに、一瞬で心を奪われました。初めて見たのは男性選手5人、女性選手1人が出場し、女性選手が1着を獲ったレース。私もあの女性選手のように、男性に

も負けない選手になりたいと思ったのが、ボートレーサーを志したきっかけです」と、これまで全く知らなかった世界への第一歩を踏み出しました。

競争倍率約19倍もの 超難関を突破!

ボートレーサーを目指し始めた野田選手は、母親同士が知り合いの先輩レーサー、小芦（おし）るり華選手に相談してボートレースへの知識を深めました。そして高校3年生の時、福岡県柳川市にあるボートレーサー養成所への入所に向けて、受験対策を始めます。

第1次試験は、学科と体力の2つの試験があり、体力に自信があった野田選手は、学科を重点的に取り組むため、友人と遊ぶことを我慢し、学校の昼休みや授業の合間の休み時間さえも勉強に充てました。

努力の甲斐あって、第1次試験に合格。苦楽をともにしてきたバレー部の仲間たちに、養成所への入所が決まったら高校を辞めると打ち明けます。

「春高バレーの予選が控えている最中に、報告するのは心苦しかったのですが、みんなが応援するよと言ってくれました。ものすごく力になったし、ここで合格を決めたいと

●ボートレースとは…最高時速約80kmで競う、水上の格闘技とも言われる迫力満点のスポーツです。男女平等で、女性も同じ条件で男性と肩を並べて競います。

